



2026 年 7 月 28 日

マツダ、インドネシアで「MAZDA CX-30」の現地組立を開始

—ASEAN 地域の重要市場として強化へ—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は本日、インドネシアにおいて、「MAZDA CX-30(マツダ シーエックスサーター)」の現地組立を本年 7 月 29 日より開始することを発表しました。マツダは、インドネシアを ASEAN 地域における重要市場の一つと位置づけ、当該市場でのビジネス成長を加速させてまいります。

現地組立は、インドネシアにおける販売統括会社である PT Eurokars Motor Indonesia(EMI)^{*1} およびその子会社 PT Eurokars Produksi Pratama(EPP)^{*2} が主導し、マツダ車専用ラインで実施されます。マツダは、グローバル品質基準を実現するための人材育成や設備導入、車両生産に関する技術的なアドバイスや部品供給を通じて、現地生産の品質確保と円滑な立ち上げをサポートしています。ライトアセット戦略のもと、パートナーとの協業体制を築き、お客さまにより身近に、高品質で信頼性の高いマツダ車をお届けできる体制を整えました。



「MAZDA CX-30」(インドネシア組立モデル)

本日、実施した生産開始セレモニーで挨拶した上級執行役員の中島 徹(なかじま とおる)は「インドネシアはマツダにとって、ASEAN 地域における販売台数がベトナム、マレーシア、タイに次ぐ重要市場で、今後も成長が期待できる市場です。CX-30 の現地組立はインドネシアにおけるマツダブランドの持続可能な成長を支えるための重要な一歩となります。当該市場でのマツダの独自価値をさらに強化し、お客さまの信頼を深め、お客さまにこれまで以上に豊かな保有体験を提供することを目指してまいります。今後も、マツダはビジネスパートナーと一体となり、この国の自動車産業のさらなる発展に貢献するとともに、ブランド価値経営のもと、より多くのお客さまのニーズに沿った商品ラインナップとお客さまに「走る歓び」を提供し、インドネシアを ASEAN 地域の重要拠点のひとつとしてビジネスを反転させてまいります。」と述べました。

マツダは今後も各地域の特性に対応しながら、マツダ独自の移動体験の感動をお届けし、より多くのお客さまに選ばれるブランドであり続けることを目指してまいります。

以 上

*1 現地資本 100%の自動車卸売および販売会社で、マツダとの資本関係は無い。

*2 EMI100%子会社の自動車製造会社で、マツダとの資本関係は無い。